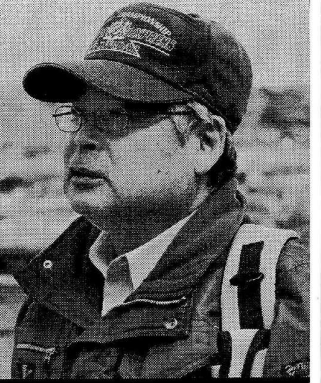


柏葉照幸校長は一日一度は小学校を訪れ、新たに発見された遺体を確認する



「たった5人の卒業式」 私たちは こないのか

もう一度、あの子に会いたい

想像してほしい。静かな小山と穏やかな大河に囲まれた、一見のどかな小学校の校庭を。

東北の3月はまだ寒く、薄曇りの空からは粉雪がハラハラと舞っている。空気は澄み、学校の目と鼻の先を流れる北上川は、豊富な水量を誇るようにゆったりと流れている。

80人ほどの小学生が、学年ごとに六つの列をつくって並んでいる。慌てて校舎から飛び出したのか、ジャンパーを着ていない子や、上履きのままの子がいる。ある学年は全員ヘルメットを被っているが、別の学年はそうでない。

3月11日、午後3時15分。石巻市立大川小学校を惨劇が襲う直前、彼らの幼い顔には、一様に不安が浮かんでいたのだろうか。それとも小学生らしく、大きな地震を体験した高ぶり、友達とふざけあうような子もいたのか。

いまと違っては、それを確認する術はない。なぜなら、その風景を見ていたはずの先生も、そこに並んでいた子どもたちも、全員があの津波に呑み込まれてしまったのだから。

「あの日、私は川をはさんで小学校の対岸にある会社で仕事をしていました。地震の揺れがひどく、すぐに車で子どもたちを迎えに行きたかったのですが、出納担当なので、その日の伝票を処理しないと会社を出てはいけないと上司に言われてしまった。

急いで伝票を片づけて車に飛び乗り、車載のワンセグテレビをつけたとき、初めて津波のことを知ったん

全校生徒の7割が津波に呑まれ、生き残った教師も校長を含めて二人だけ……。そんな悲劇の学校がある。宮城県石巻市立大川小学校。失意のどん底に沈んだ校長と生き残った子どもたちの感動秘話。

です」(子ども二人を大川小に通わせる母親)

いつものほしな潮の香りがする。車を急発進してすぐに、北上川の下流の方向から逃げてきた人々の姿を見た。

津波はもう、すぐそこまで来ていたんです。車を捨てて会社の階段を駆け上り、水がきて、さらに上の何かにつかまって私は助かったのですが……そのときに私はこの目で見てしまったのです」

それは信じられない光景だった。真っ黒な水のかたまりが、対岸の小学校を瞬間で丸呑みした。川からだけでなくもう一方からも水がきてぶつかり、恐ろしい轟音をたてながら、巨大な渦を巻いていた。

21日、下の男の子(1年生)の遺体が泥の中から見つかった。長女(3年生)は行方不明のままだ。

本誌記者は災害から10日後、現場を歩いた。ありし日といまの写真(左上2点)を比べると一目瞭然だが、小学校は骨格だけは残っているものの、見るも無惨に朽ち果てていた。

1階の教室は天井近くまで瓦礫とヘドロが堆積している。2階の教室にも50cmほど瓦礫が溜まり、ランドセルやノート、サッカーボールなどが泥だらけになって落ちていた。

周囲はまったくの無音。記者が瓦礫を踏み音だけが響く。流されてきた防潮流の松の木が、2階の窓から校舎に突き刺さっている。

ひとつの間にか、ひとりの女性が近くにたたくずんぞんぞん。話しかけると、取材に応じるといふよりは独り言の

ようにつぶやいた。「あれから毎日、ここにきて息子を捜しています。私はパートに出ていて、学校が見下ろせる場所に着いたときには、すべてが終わっていました。なぜ、もともと車を飛ばさなかったのか、なぜ、もっと早く仕事場を出なかったのか……。私、

夢が覚めるころ

悲しみに満ちた大川小学校に、他の誰とも違う苦しみを抱える、一人の人物がいる。校長の柏葉照幸さん(57歳)である。

災害当日、柏葉校長は学校にいなかった。娘の卒業式に出席するため、午後休を取っていたのだ。50km以上離れた娘の中学校で、強い揺れを感じた。大川小の電話も、どの教諭の携帯もつながらない。

「いても立ってもいられず車で学校を目指しました。でも途中で渋滞に巻き込まれたり、通行止めが多かったり、学校近くの避難所に着いたのは夕方5時ごろ

あの子に申し訳なくて。せめてもう一度、あの子に会いたいです」
会いたい、それは、遺体だけでも見つかったほしいという願いだ。それがかなわずとも、我が子の面影が残るものにしたいたい、いまでも多くの親、祖父母が現場を訪れている。

だったと思います。学校は水没していて近づくこともできないと聞き、子どもたちは、先生たちは、と目の前が真っ暗になりました」
だが、本当の絶望はこのあとやってくる。生存を確認できる生徒も先生も、ほとんどいない……。

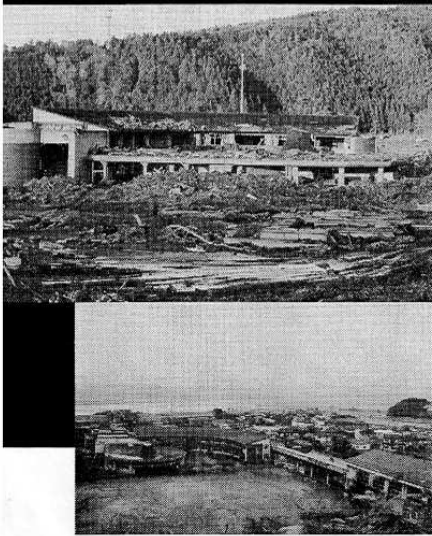
災害後、多くの学校が避難所となったように、小中学校は高台に建てられることが多い。学校にいた多くの子どもが津波の難を逃れたことは、不幸中の幸いだと言われてきた。

ところが、大川小は低地にある上に、すぐそばを川が流れていた。それでも河

現地レポート

宮城県石巻市立大川小学校

もう君 戻って



豊かな緑に囲まれていた学校(下)が、見るも無惨に……

108人いた生徒のうち、75人以上を

喪ってしまった校長先生の慟哭